



ミツカン水の文化センター

表紙上：四万十町の林幸一さんと水車の勇姿。「エネルギーを生み出す」というのは、単に電気をつくることだけではない。「生きる力」まで含めて考えれば、小水力発電、とりわけマイクロ水力には、秘められた役割がある。

表紙下：第三セクター ゆすはらベレット株式会社の工場内。徹底的に地域資源を生かす姿勢が、美しい架構を見せる建物にも表われている。

裏表紙上：物部川から取水した水が、サイフォンで湧き上がる出口は、小水力発電の適地中の適地だ。このエネルギーを使わないという手はない。

裏表紙右下：土佐町の伊藤さんの家は、CO₂排出ゼロの自家製水力発電だから、節電なんて無縁のオール電化。テレビは壊れるといけないから、四国電力からの有料の電気がきている赤いコンセントを使用。白いコンセントは、タダ（無料）の電気。

裏表紙左下：広島の水内川で、高知では出会えなかった川ガキに、やっと出会うことができた。「保護者がそばで見張っているのは川ガキの定義から外れる」と言うのは、元・川ガキの古谷桂信さん。

底力



小林 久「小水力発電の未来とは」
 谷口信雄「〈地産都消〉都市の役割」
 宮崎 淳「体系的にみた水利権」
 水の文化楽習実践取材「工業高等専門学校の心意気」
 鈴木純子 シリーズ里川「老舗旅館のエコパワー」
 沖 武宏「小水力発電の巨人 織田史郎」
 古谷桂信「地域密着型資源の可能性」
 廣林孝一「ものづくりの底力」
 矢野富夫「目指せ！ 永続地帯」
 古賀邦雄 水の文化書誌「ダム文学の探求」

水の文化
2011
39

水の文化 November 2011 No. **39**

